

## 人と自然が共存できる里山回復を目指した活動

### 冬と春がせめぎあい

2月5日午後からの降雪は水分が多い重たい雪、その影響で松や杉などの高木、ナラ枯れによる太い枝が広範囲に落下して、林内は至る所で危険な状態です。

早春は三寒四温を繰り返して、春の兆しを感じるようになります。足元では落ち葉の中からキツネノカミソリの葉が顔を出し、落ち葉に隠れていたシュンランは蕾が膨らみ、陽当たりの良好な場所ではヤマネコノメソウが開花、イヌシデの枝先も茶色の新芽が膨らみ始めました。



シュンランのツボミ



ウグイスカグラの開花



降雪で5本のツガの一本が幹折れ

### 生き物の産卵が始まる

2月中旬、冷たい雨と降雪で真冬並みの寒さが続きました。田んぼは水位が回復、晴れた日に気温が上昇すれば、ヤマアカガエルの産卵が見られるでしょう。

2月15日は春一番を記録、16日は青空が広がり気温が上昇、昼過ぎには数十匹のヤマアカガエルが田んぼの水たまりで飛び跳ね、鳴き始めて産卵が始まった。



ヤマアカガエルが産卵開始

2月中旬、湧水の落ち葉にトウキョウサンショウウオが産卵した3対の卵囊が確認されました。これから3月中旬まで本格的な産卵行動が見られるでしょう。



トウキョウサンショウウオ卵囊

アオゲラの鳴き声は聞こえても、近くで姿を見ることができません。目の前のコナラの根元に一羽のアオゲラがエサを探しに現れました。



アオゲラ